

2025年度ITJ安全衛生・ウェルビーイング重点方針 (2024年度の振り返り, 2025年度重点方針)



2025年4月1日

株式会社 IHIターボ

1. 2024年度 ITJ安全衛生・ウェルビーイング重点方針の振り返り

<安全>

管理目標：災害ゼロ

・ 休業災害：転倒災害1件

1月22日 溶接機立上げ作業後の横移動時に溶接機コントローラコードに足を引っ掛け転倒
コードの養生のやり方不備、夜勤の作業者のしまい忘れ、被災者本人の気付きと、防げる機会が3度あったがすり抜けて発生。

※ リスク感受性の向上、コードやホースが床に垂れない本質的対策の推進が必要

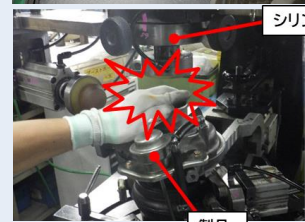
・ 軽微傷災害：挟まれ災害1件

10月23日 エアリーク装置の調整作業中に左手をシリンダーにて挟まれた
当該装置のRAで、エリアセンサー、両手押しスイッチの取り付けが対策としてあがっていたが未実施だった。

※ 挟まれ防止対策として、人に頼らない対策（隔離と停止の原則）のさらなる推進が必要

⇒リスクの把握・対策の仕組みや、リスク感受性のレベルアップ、および本質的安全対策の再徹底が必要

- ・ 通勤途上での積雪・凍結等による転倒災害が連続し発生 5件
- ・ ヒヤリハット 12件 上期に物流関係のヒヤリ（9件）が多かったが、対策の結果下期は減少
- ・ ITJ全災害度数率は、2025年2月末現在0.96 管理数値目標（工場部門0.60）未達



<ウェルビーイング>

管理目標：健康度調査項目の平均値：50%以上の職場で改善

- ・ 健康度調査項目の平均値：48.6%の職場で改善（前年度：42.5%）で目標未達であるが、前年比+6pt
- ・ ストレスチェック：全社総合健康リスク△ 3 Pt（89⇒86へ改善）

高ストレス職場/ 2 職場（年度末再検査で1職場は脱却）

※ 連続して高ストレス職場に該当する職場（組立＝最終工程）への対応が課題。

⇒ボトムアップの職場づくりだけでなく、組織・人事面でのトップダウンのアプローチも必要

- ・ エンゲージメントサーベイ：活躍社員の比率は前年比微増+1pt（20%）

※ 部門別・階層別のスコアの2極化が顕著（改善活動が活発な部門・階層でスコアが高い傾向）

⇒部門の特性に応じたフォロー、改善活動の推進・支援による成長実感の醸成が必要

2. 2025年度 ITJ安全衛生・ウェルビーイング重点方針（安全）

リスクアセスメント, リスク対応の強化を通じて, 事故や災害の発生を未然に防ぐ。
 Prevent accidents and disasters by strengthening risk assessment and risk response measures.

DE & I

1. 安全管理重点方針 目標：災害ゼロ

(1) 「危険源と作業の関わり」に着目したリスクの洗い出しと評価の推進

Promote the identification and evaluation of risks focusing on the interaction between hazards and tasks.

- ITJで多いリスク(転倒、挟まれ)について、対策を行う新RA手法の定着
 Establish a new risk assessment (RA) method to address common risks in ITJ, such as falls and entrapment.
 ⇒各職場でモデル作業を設定し、危険源型リスク確認を実施：上期
 危険源調査と対応策の仕組み構築と運用：下期
- 各種パトロール活動による危険源の洗い出し
 Identifying hazards through various patrol activities.
 ⇒危険な場所/「＊にくい作業」の抽出/排除など、本質安全目線の各種パトロールの強化
 「危険源と作業の関わり」に着目した洗い出しと対策を実施

(2) 危険感受性の向上により、「自立型・相互啓発型」組織を目指す

Aim to build a "self-reliant and mutual enlightenment" organization by enhancing hazard awareness.

- KYM、RA等のコミュニケーションにより、安全施策・注意事項の認識共通化
 Standardizing the understanding of safety measures and precautions through communication methods such as KYM and RA.
- 危険感受性の向上による、自主点検の文化醸成
 Fostering a culture of self-inspection through the enhancement of hazard awareness.
- 未熟練作業者の危険意識、予知レベルの向上
 Improving hazard awareness and risk prediction skills among inexperienced workers.
 ⇒階層別安全教育、安全トピックス等の展開等

3. 2025年度 ITJ安全衛生・ウェルビーイング重点方針（ウェルビーイング）

すべての基盤である「^{きばん}心身の健康^{しんしん けんこう}」の観点から、^{かんてん}

「^{ひとり}一人ひとりの活力向上^{かつりよくこうじょう}」と「^{はたら}働く喜び^{よろこ}が得られる職場^え」へ取り組む。^{しよくば} ^{と く}

From the perspective of "physical and mental health," which serves as the foundation for everything, strive to enhance individual vitality and create a workplace where employees can find joy in their work.

2. ウェルビーイング重点方針 目標：

①高ストレス職場ゼロ、②エンゲージメントサーベイ「成長の機会」肯定率50%

1. オフェンス（攻め）の施策：

（1）^{ひとり}一人ひとりの活力向上^{かつりよくこうじょう}につながる習慣^{しゅうかん}づくりの推進^{すいしん}

Promote the establishment of habits that contribute to enhancing individual vitality.

- 活力を高めるための睡眠・栄養・運動・禁煙等に関するトレーニングや情報を提供する
- 従業員は、自身の活力を高めるための習慣づくりに取り組む

（2）^{はたら}働く喜び^{よろこ}を感じられる職場^{かん}づくり^{しよくば}

Create a workplace where employees can experience the joy of working.

- ストレスチェック・健康度調査、従業員意識調査等の深掘りと結果のフィードバック、対象職場の評価・見直し、職場づくりの支援をウェルビーイング担当者とともに進める。

2. ディフェンス（守り）の施策：

（1）^{そうき}早期対応^{たいおう}・^{そうき}早期回復^{かいふく}・^{さい}再チャレンジ^{しえん}を支援するためのプログラム※のブラッシュアップ

Enhance programs to support early response, quick recovery, and re-challenge.

※ AKP教育（管理監督者向けメンタルヘルス教育）、再適応支援の手引き、ガイドライン等を指す

（2）^{けんこう}健康診断^{しんだん}後の受診^ご勧奨^{じゆしんかんしょう}システム導入など、^{どうにゆう}心身の不調^{しんしん}に速やかに適切な対応^{ふちよう}ができる体制^{すみ}を作る。^{てきせつ} ^{たいおう} ^{たいせい} ^{つく}

Establish a system that enables prompt and appropriate responses to physical and mental health issues, such as implementing a follow-up recommendation system after health checkups.

「すべての災害は防ぐことができる」との強い信念のもと、全員参画で「災害ゼロ」の実現を目指す。

管理目標：災害ゼロ

- ・ **休業災害：1件** 1月22日 溶接機立上げ作業後の横移動時に溶接機コントローラコードに足を引っ掛け転倒→コードの養生のやり方不備、夜勤の作業者のしまい忘れ、被災者本人の気付きと、防げる機会が3項目あったがすり抜けて発生。危険への感受性の向上、コードやホースが床に垂れない本質的対策の推進に取り組む
- ・ **軽微傷災害：1件** 10月23日 エアーリーク装置の調整作業中に左手をシリンダーにて挟まれた→当該装置のRAで、エリアセンサー、両手押しスイッチの取り付けが対策としてあがっていたが未実施だった。挟まれ防止対策として、人に頼らない対策（隔離と停止の原則）の推進に取り組む
- ・ 通勤途上での積雪・凍結等による転倒災害が連続し発生 5件
- ・ ヒヤリハット 12件 上期に物流関係のヒヤリ（9件）が多かったが、対策の結果下期は減少
- ・ ITJ全災害度数率は、2025年2月末現在0.96 管理数値目標（工場部門0.60）未達

重点方針

（１）「自立・相互啓発型」組織に向けた対話の強化
・リスク洗い出し精度を高め、施策・注意事項の認識共通化
⇒ 非定常作業や付随する作業についても、現場確認と作業の前後の危険要因も含めて対策に取り組む

振り返り

- 双方で「気づける」ように、全員が共通の認識となる取り組みを推進 KYM、RA活動を通してコミュニケーションを行った
- 非定常作業対応フロー、ITJ重点災害リスクの整理、掲示物、ポケットカードにて周知した
- 木曽・新町合同安全衛生委員会を開催。社長コメントや安全パトロールの対策内容など情報共有が促進する形で開催

重点方針

（２）「グループ安全基本原則」に該当する災害の撲滅
 ・特に、機械・装置、重量物取り扱い時のはさまれ、手工具使用時の災害の撲滅
 ⇒ **危険な場所/「＊にくい作業」**の抽出/排除など、**本質安全目線**の各種パトロールを強化していく
 ⇒ **関係者全員参加によるKYMとRA活動の確実な実施**
 （安全衛生委員会でフォロー）

（３）未熟練作業者の災害の撲滅
 ・**上位者とのKYM**を通して危険意識・予知レベルの向上
 ⇒ 上記（１）の共通認識活動
 ・教育による危険感受性の向上
 ⇒ 産汎領域内で展開される**VR教育**の活用など

振り返り

- ITJクロスパトロール、自部門パトでの定点観察、安衛部門の是正確認パト（イエローカード）等のパトロール活動を実施
 2024年度 指摘件数:456件(2023年:462件)
- 上期、下期で各部門テーマを決めてRA活動を実施。進捗を安全衛生委員会で報告し、達成率100%を目指してフォロー
 上期：洗い出し件数336件 達成率100%
 下期：洗い出し件数222件 84% 活動中
挟まれ対策として、人に頼らない対策（隔離と停止の原則）の推進と完遂が必要
- **IHIグループで事前対策を充実させるため、リスクアセスメント手法を改善する必要がある。**
- 上記(1)の双方で「気づける」ように、全員が共通の認識となる取り組みを推進。各グループ、KYMの進め方工夫して取り組みを推進している。
- **コードの転倒災害、凍結した路面での転倒など、危険への感受性の向上が必要**
- 外国出身の従業員の多いグループについてコミュニケーション方法など工夫が必要

<補足> 2024年度 ITJ安全衛生・ウェルビーイング重点方針の振り返り（ウェルビーイング）IHI

「一人ひとりの活力向上」と「働く喜びを感じられる職場づくり」を目指し、
全員参加でウェルビーイング活動に取り組む。

<全般>

管理目標：健康度調査項目の平均値：50%以上の職場で改善

- 健康度調査項目の平均値：48.6%の職場で改善(前年度：42.5%) 目標未達であるが、前年比+6pt
- ストレスチェック：全社総合健康リスク△3Pt（89⇒86へ改善） 高ストレス職場/2 職場継続
- エンゲージメントサーベイ：活躍社員の比率は前年比微増+1pt（20%）

重点方針

（１）オフENS（攻め）の施策：個人と組織の活力向上

- 個人の活力を高めるための習慣づくり（睡眠・栄養・運動・食事・禁煙など）
⇒ 領域重点項目の睡眠、運動支援のウォーキング企画など
- 誰もが安心して働くことができ、活躍できる職場風土づくり
⇒ 「小集団活動」、「対話活動」、「メンタルヘルスマネジメント」などの
全社活動の推進
⇒ 職場のマネジメント系列と連携し、従業員同士が相談しやすい
職場風土の醸成を進める

（２）ディフェンス（守り）の施策：心身の不調に速やかに対応できる体制の整備

- 早期対応・早期回復・継続支援のためのプログラムの継続的なブラッシュアップ
⇒ **各種支援プログラムの活用**
マネージャー向けメンタルヘルス・AKP(*1)教育・セルフケア教育・再適応支援・治療と職業生活支援など
- 基盤となるヘルスケアと疾病予防対策の推進
⇒ **疾病予防対策推進と適切な就業措置管理**
健康診断後の適切な受診勧奨・就業措置管理・特定保健指導、熱中症・感染症の予防対策の徹底など

振り返り

- ウォーキングキャンペーン開催：春43名参加、秋104名参加
- **9月 ITJ全社健康教育：講師/産汎中村産業医**
- 高ストレス職場へのストレスチェックフィードバック：アクションプラン作成
- ウェルビーイング推進活動：IHIグループ推進担当者会議、領域担当との個別対話等を通じて、関連会社との情報交換を弊社活動に活かした

※ 連続して高ストレス職場に該当する組立職場が課題。ボトムアップの職場づくりだけでなく、**人事対応を含むトップダウンのアプローチが必要**

- 10月 産汎睡眠教育開催：ITJ/20名参加
- 2月 産汎管理監督者メンタル事例学合い開催：22名参加
- 3月 管理監督者メンタルレラーニング：44名参加
- 医務室だより：禁煙・乳がんなどの教育資料を毎月配信
- **喫煙率：△2.2Pt 年々減少傾向にある**
- 疾病治療支援：定期面談と制度的支援
- 再適応支援の手引き：ブラッシュアップ
- **有所見者フォロー、受診勧奨：就業制限ゼロ達成**
- **特定保健指導：100%実施**
- 感染症予防対策：職場内蔓延なし

※ 疾病の早期発見、早期対応のため、確実に受診してもらうことが重要。
未受診者を可視化できる体制が必要